

みと東部特別養護老人ホーム

厚生労働大臣表彰優良賞
施設・居住サービス部門

法人名	社会福祉法人 仁心会(じんしんかい)	
サービス種別	介護老人福祉施設	
所在地	茨城県水戸市	
利用者数	70名	※利用者数及び従業員数は 令和8年1月1日時点
従業員数	62名(常勤45名／非常勤17名)	



▲職員向けの介護記録ソフト使用
マニュアルの作成



▲記録・スケジュールの電子化による業務効率化

①生産性向上の取組

ICT導入で申し送り時間の短縮

②職員の待遇改善に係る取組

多様な採用と週休3日制で職場環境を改善

③人材育成に係る取組

職能評価制度の新設

主な課題	紙・電話を中心とした情報共有により業務の属人化と確認作業の増加が進み、週休2日制と週休3日制の職員が併存していたため、情報共有するための時間が増え、負担が増加していた。		介護人材不足による業務終了後の記録・申し送り等の残業が増加していた。育児・家庭事情を抱える職員が継続して就労できる柔軟な勤務体制が整っていなかった。		評価基準が資格・経験年数に偏り、実際の業務能力や組織への貢献度が処遇に反映されていなかったため、職員のモチベーション低下と人材の定着に改善が必要であった。	
取組開始時期	令和5年1月～		令和5年1月～		令和5年1月～	
取組の内容	✓ チャットツールを導入し、紙・電話・口頭で行っていた申し送りをチャット上で共有できる体制を整備した ✓ 既存の介護記録ソフトの申し送り・スケジュール機能の活用方法を見直し、紙中心の運用から段階的に電子へ移行させた ✓ 担当者が介護記録ソフトや利用者対応のマニュアルを作成し、勉強会や個別フォローを行うことで、職員が安心してICTを利用できる環境づくりを進めた		✓ 職員アンケートを実施した上で、週休3日制度をユニット単位で試験導入した ✓ 技能実習生・特定技能実習生を採用し、ふりがな付きマニュアルの作成・現地面接・外国人メンターの任命により定着を支援した ✓ 妊娠中・育児中の看護師を短時間正社員として採用し、日中に嘱託医との情報共有を円滑にして状態を予見した対応が可能となった		✓ 従来の勤務評価表に加え、研修参加・委員会活動・対応可能な勤務形態数など、複数要素を点数化した職能評価表を職種ごとに作成した ✓ 評価結果を処遇改善加算の配分に反映させる仕組みを整備した ✓ 年2回の1on1ミーティング・面談を実施し、賞与査定時に目標達成状況を確認する仕組みを整備した ✓ 評価表を業務管理ツール上で作成・管理し、評価結果の管理や集計作業を効率化した	
取組前後の成果指標	申し送り等の情報共有に要する職員1人あたりの時間/日	1時間 → 10分 (R5平均 → R6平均)	週休3日制度の利用人数	8人(R8年8月時点) ※介護職員37名中	研修参加回数 (職員1人あたり)	5回 → 20回 (R5平均 → R6平均)
	生産性向上の勉強会開催数/年	2回 → 12回 (R5 → R6)	外国人職員の採用数 (年間総数)	0人 → 10人 (R5 → R6)	勤務評価作業に要する日数(勤務評価者1人あたり)	約30日 → 約7日 (R5 → R6)
			オンコール対応数/月 (看護職員)	10回 → 7.5回 (R5平均 → R6平均)	資格手当の年間総支給額	12%増加(R5→R6) ※支給対象者の増加等

負担軽減・満足度指標	離職率	7.6%(R5) → 1.6%(R6)
	有給休暇取得率	66%(R5) → 82.6%(R6)